

核兵器国に付度とは 日本の国連決議批判

井上議員 参院外防委

井上さとし参院議員は11月27日の外交防衛委員会で、政府が今年の国連総会第一委員会(軍縮・安全保障)に提出した「核兵器廃絶決議」について、核兵器禁止条約に言及せず、「安全保障環境」を理由に核廃絶の先送りにつながる新

たな文言を取り入れたことを批判しました。

善が先だとして核廃絶を先送りするために米国が「核軍縮のための条件創造」(CNNND)を持ち出し、英仏ロ中と共に核保有5大国で禁止条約の反対声明(10月22日)を表明したと批判。一方、国連に提出した日本の決議前文には「国際的な安全保障環境を改善し、核兵器のない世界を追求」が盛り込まれたとのべ、「核保有国と非核保有国の『橋渡し』といいながら結局、核保有国と同じ立場の決議ではないか」と迫りました。河野太郎外相は、「日本政府の決

議はCNNNDの方針と異なり「核軍縮に条件をつけるものではない」と強弁しました。

井上氏は、オーストリアの国連大使が「核軍縮のために前提条件が整うのを待てば永久に待つことになる」と、日本の決議に失望する声をあげていることを示し、「核兵器国に付度(そんたく)するのではなく、核兵器禁止条約に参加し、唯一の被爆国として核廃絶を迫る立場を今こそとるべきだ」と求めました。



大量の建設残土持ち込みを調査

たけだ、島津氏 三重・紀北町

たけだ良介参院議員と島津幸広前衆院議員は11月29日、建設残土が大量に持ち込まれている三重県紀北町に入り、現地調査を行いました。中川たみひで参院選挙区候補も参加、中津畑正量、近澤チヅル町議が案内し、党支部の方も同行しました。

紀北町では数年前から建設残土が首都圏から大量に運ばれ斜面などに積み重ねられている場所が7か所あります。住民に説明はな

く、住民は崩落や環境汚染を心配しています。

調査。名倉地区では山道から谷へ数十メートルにわたって土砂が持ち込まれ(写真)、下には住宅や紀勢本線も走っています。大雨で土砂が水路や町道に流れ込んだ所もあります。

武田議員は「大量の土砂が捨てられ、住民の皆さんの不安が理解できた。国会でも追及しているが、国土交通省は既存の法律で対応するという姿勢にとどまっている、法制化に向け努力したい」と語りました。

〇：三浦地区での住民懇談会には無所属議員をはじめ45人が参加し、「土砂を運搬するダンプが早朝から走り、怖くて散歩に行くのをやめた」「どういう土が運ばれてくるのか心配」「大雨で崩れないか」など次々に不安が出され、条例をつくって規制してほしいと要望が出されました。

地元紙をはじめマスコミ数社が取材し、翌日紙面で詳しく報道したところもありました。

「有害物質が入っていないか」「崩れてこないか心配」 条例で規制を

